

5 教育委員会所管事務事業にかかる点検・評価

事業評価の性質について

↑・・・指標の実績値が計画値を上回る方が良い ↓・・・指標の実績値が計画値を下回る方が良い
 =・・・指標の実績値と計画値が等しくなる方が良い

評価対象外・・・実績値の数字での評価ではなく、事務事業の上位施策への貢献度により評価

施策：2112 保育・幼児教育の充実

平成31年度
目指すべき姿



・第2期「子ども・子育て支援計画」を策定し、保育の量的拡大や地域の子育て支援の充実を図る。特に、民間認可保育所の開設等を支援することで年度途中の保育所待機児童の解消に努める。
 ・伊丹市幼児教育ビジョンに基づき、就学前施設関係職員に研修会を開催するとともに、市民対象にイベント等を実施し、市全体で幼児教育の質の向上を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	・民間認可保育所の誘致等により、令和2年4月には4年連続で年度当初の待機児童ゼロを達成できた。 ・伊丹市幼児教育推進計画に基づき、幼稚園教諭と保育士等で構成するワーキング会議にて伊丹市幼児教育ビジョンの実践をめざして協議し、認定こども園等を整備した。
	成果と課題	・民間認可保育所の誘致等により概ね計画どおりの定員数の増を図ることができた。引き続き、年度途中における待機児童の解消に努めていく。また、保育料の無償化においては、4、5歳児を対象に継続実施し、国の幼児教育・保育の無償化に先行して実施することができた。 ・こばと保育所を移転新築するとともに、わかばこども園、さくらだいこども園及び幼児教育センターを開設し、今後も、質の高い教育・保育の提供に努めていく。
	令和2年度への対策・対応	・保育需要の見込まれる地域に民間保育所の誘致等を行い、年度当初の待機児童解消を目指す。 ・市全体で幼児教育の質を向上させるため、職員研修の実施や市民向けイベントの開催等により幼児教育の重要性等の周知を図る。 ・幼児教育センター及び拠点園が連携し、伊丹市幼児教育ビジョンに基づく研修等を実施することで、市内全ての就学前施設における質の向上を目指す。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全26事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	211202	民間活力による保育所等の整備	保育所等定員増数（人）	180	174	↑
☆☆☆	211209	公立保育所延長保育事業	延べ利用者数（人）	2,271	2,168	評価対象外
☆☆☆	211214	公立保育所等通常保育事業	公立保育所・こども園数（箇所）	8	8	評価対象外
☆☆☆☆	211229	幼児教育段階的無償化推進事業	無償化実施率（％）	66.7	66.7	↑
☆☆☆☆	211231	幼児教育充実施策推進事業	研修会・イベント開催回数（回）	10	10	↑
☆☆☆☆	211232	認定こども園整備事業	整備進捗率（％）	70	70	↑

施策：2113 発達に支援を要する子どもの支援

平成31年度
目指すべき姿



・発達に支援が必要な子どもたちが地域で安心して生活できるよう、保育所等訪問支援や居宅訪問型児童発達支援、市民啓発などを実施し、地域支援機能の充実を図る。
 ・子どもや保護者のニーズに合わせた支援が行えるよう、保健・医療・福祉・教育のネットワークの構築と活用に向けて、相談支援機能の充実を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	・相談支援の流れを見直し、他機関との連携や初期相談への敏速な対応など相談業務の充実が図れた。 ・多様なニーズに対応するため、相談支援を中心に関連部局や関連機関と連携することで、地域支援の充実を図った。
	成果と課題	・医療機関への周知を進め、医療的ケア児の受け入れ体制を整えることができた。今後はさらに、在宅における医療的ケア児への支援の充実を図っていく。 ・保育所等訪問や相談支援などに関する教育機関への周知により、学校や幼稚園など関連機関との連携を進めることができた。今後は、民間事業所や教育機関との連携とともに、相談支援や地域支援事業の整理を行う。
	令和2年度への対策・対応	・多様なニーズに対応できる支援体制を充実させるとともに、関連部局および他機関との連携を図り、地域支援機能の充実を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	211311	統合保育事業	延べ利用者数（人）	2,340	2,040	評価対象外
☆☆☆	211313	こども発達支援センター運営事業	児童発達支援、相談支援、保育所等訪問支援、診療所等の年間延べ利用者数	22,086	20,715	↑

施策：2114 子どもの育ちの支援

平成31年度
目指すべき姿

重点化

・放課後児童クラブにおいて、全学年を対象とした保育の実施を継続するなど、子ども・子育て支援計画に基づく各事業の充実を図る。
・子どもの主体性や創造性を育む環境づくりの更なる促進のため、活動拠点となる新児童館の整備を進める。

☆☆☆	施策評価の理由	・引き続き全学年を対象として放課後児童クラブを実施し、子どもの居場所づくりを推進した。 ・新たな子どもの居場所として新児童館整備を進めるなど、子どもの主体性や創造性を育む環境づくりを進めることができた。
	成果と課題	・放課後児童クラブでは全学年を対象とした安定した保育を可能とするとともに、新たな子どもの居場所としての新児童館整備についても令和2年度の開館に向けた工事を開始するなど、子どもや若者の居場所づくり及び健やかな育ちを支える事業を着実に実施し、児童の健全育成を推進した。 ・今後も、子どもの居場所に関するニーズ等を的確に把握するとともに、各事業の充実を図っていくことが重要となる。
	令和2年度への対策・対応	・各事業の充実を図りつつ、課題やニーズに即した健全育成事業を展開していく。 ・放課後児童クラブの改修や新児童館を始めとする子どもの居場所づくりの進捗により、更なる子どもの主体性や創造性を育む環境づくりを促進する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全14事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	211401	放課後児童クラブ事業	在籍人数	1,601	1,700	評価対象外
☆☆☆	211418	保育業務管理システム構築・運営事業	システム構築率（％）	100	100	=
☆☆☆	211422	児童館整備事業	設計及び工事完了を100%とした場合の進捗率	54	54	=

施策：2115 若者の自立支援

平成31年度
目指すべき姿

取組維持

・困難を有する若者とその家族が必要とする情報等の提供による周知、啓発を行い、当事者やその家族が相談しやすい環境作りを進める。
・若者支援に関する講演会や研修会を実施し、市民の理解の促進を図る。
・ひきこもり支援に関して、家族間のネットワーク作りを促進し、家族の負担軽減等を図る。また、当事者の社会参加につながる取組を充実させる。

☆☆☆	施策評価の理由	・講演会、相談窓口、家族のつどい等を通して、支援情報を必要とする方へ届けるとともに、市民理解を促すことができた。
	成果と課題	・講演会等により、ひきこもり支援の周知・啓発を進めることができた。 ・「困難を有する若者を抱える家族のつどい」の継続した運営を促進することができた。 ・講演会等の開催機会が減少したため、周知・啓発機会の増加等に取り組む必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・講演会などを通じた支援情報等の発信や市民理解の促進とともに、「困難を有する若者を抱える家族のつどい」等の取組を継続していく。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全3事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	211501	青少年問題相談事業	電話相談・来所相談の件数	—	110	評価対象外
☆☆	211503	若者自立支援相談	講演会・研修会の参加人数（人）	140	66	↑

施策：2121 家庭教育の推進

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

・保護者等に対して学習機会を提供、啓発チラシ等の配布を行うことで、家庭教育の意識を向上させる。

☆☆☆	施策評価の理由	・家庭教育に関するチラシ等での啓発や家庭教育講演会を通じた基本的な生活習慣の習得など家庭教育について振り返る機会を提供し、家庭教育の推進を図ることができた。
	成果と課題	・家庭教育学級参加者の評価が計画値を上回らなかったが、90%以上の肯定的評価を得られた。学校・家庭・地域の連携による、子どもがすこやかに育つ教育環境づくりを進めるためには、保護者等への更なる取組が必要である。
	令和2年度への対策・対応	・学校・家庭・地域の連携により、基本的な生活習慣の習得など家庭教育に関する学習機会としての家庭教育学級を実施し、保護者等の家庭教育力の向上を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全7事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	212102	草の根家庭教育推進事業	就学前・思春期家庭教育学級参加者の肯定的評価(%)	95.0	91.4	↑
☆☆☆☆	212107	早寝早起き朝ごはん事業	中学生の朝ごはん摂取率(%)	79.7	80.9	↑

施策：2122 子育て支援の充実

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

・各事業の着実な実施により、子育て中の保護者の育児に対する負担、不安感を軽減し、適切な情報を提供することで、子育て力の向上を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	・各事業の継続的な実施、各種情報提供、子育て支援サービスの選択肢を提示することにより、子育て家庭の多様なニーズに応えることができた。
	成果と課題	・各事業の継続及び着実な実施により、育児に伴う孤独感や不安感の軽減へ寄与することができたが、毎年度対象者が入れ替わっていく事業であるため、間断のない周知が必要である。
	令和2年度への対策・対応	・「新たな感染症との共生」を目指す事業運営に取り組み、これまでと同様、必要な人に必要な支援を届けることができるよう努める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全15事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	212210	地域における子育て支援ひろば事業の推進	みんなのひろば事業及び常設のひろば事業の参加者数	109,400	102,593	↑
☆☆☆☆	212214	育児ファミリー・サポート・センター事業	育児ファミリー・サポート・センターに登録している会員数	2,400	2,398	↑
☆☆☆☆	212219	子育て支援センター利用者支援事業	相談延べ件数	1,000	1,140	↑

施策：2125 子育て家庭への経済的負担の軽減

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

・施策を構成する各事業を適正に実施し、継続的に子育て支援に取り組み、子育て環境の整備、経済的負担の軽減を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	・施策を構成する各事業は概ね目標どおり実施され、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。
	成果と課題	・各事業を適切に実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。 ・国・県等の制度の変更に的確に対応し、子育て支援に継続的に取り組む必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・国・県等の動向や子育て家庭の状況を把握し、各事業の適切な執行に努め、子育て家庭への経済的負担の軽減を図り、効果的な子育て支援に継続して取り組む。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全16事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	212502	私立幼稚園就園奨励費補助事業	補助金交付者数	1,350	1,276	評価対象外
☆☆☆	212507	就学援助事業	就学援助認定者数	2,536	2,467	
☆☆☆	212520	私立幼稚園等預かり保育料補助事業	補助金交付者数	554	514	

施策：2131 地域ぐるみの子育て支援

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

・子育て支援に関係する組織やサークル、地域団体の活動、青少年健全育成に資する団体の活動を支援して、地域ぐるみのネットワークの構築や地域を主体とした各活動の活性化を図る。

施策評価 ☆☆☆	施策評価の理由	・多くの市民の参画のもと、子育て支援組織や地域団体等、青少年健全育成に資する団体への活動支援を通じて、地域の活性化や地域ぐるみの子育て支援の充実を図ることができた。
	成果と課題	・各事業において、市民における積極的な活動が定着してきており、地域ぐるみのネットワークの構築や活動の活性化に繋がった。 ・今後、さらに魅力のある事業を展開し、地域活動の裾野を広げていくことが必要となる。
	令和2年度への対策・対応	・子育て支援の担い手の育成やネットワークの構築を継続して支援することで、地域の住民が主体となった子育て支援活動を促進する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全9事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	213101	地域子育てバックアップ事業	補助金交付団体数（団体）	4	3	↑
☆☆☆	213103	子育てサークル補助金事業	補助金交付団体数（団体）	33	23	↑

施策：2211 自ら学び自ら考える力を育む教育の推進

平成31年度
目指すべき姿

重点
化

・新学習指導要領で求められる資質・能力の育成のために「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、授業改善を図る。
・全国学力・学習状況調査等により明らかになった本市の学習状況の課題について、家庭と連携して、改善を図る。
・少人数指導等、きめ細かな指導による、学力向上のための取組を充実させる。

施策評価 ☆☆☆	施策評価の理由	・全国学力・学習状況調査を活用した本市の学力の実態把握・分析、各校の学力向上プランに基づいた取組の進捗を管理することができた。 ・きめ細かな指導の充実のための学力向上支援教員を配置することができた。
	成果と課題	・全国学力・学習状況調査において、中学校については全国平均を上回るなど、学力を着実に向上させることができた。 ・小学校については活用力・読解力に課題がある。また、小・中学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の実践に課題がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、家庭における学習習慣の確立と授業時間数確保等を含む学びの保障への取組を進める必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・新学習指導要領で求められる「思考力・判断力・表現力等」を含む資質・能力の育成のために、「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、授業改善を図る。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学びの保障については、学習内容の定着を確認するとともに、少人数指導等に加え補充のための授業や補習の実施など、学習の遅れを補うための可能な限りの措置を講じ、子どもたちを誰一人取り残さない取組を充実する。また、指導内容を精選して教育課程を見直す。 ・子どもたちの「学びの保障」のための取組方針について地域や家庭に対しても丁寧に説明を行い、認識の共有を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全9事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221113	土曜学習事業	延べ参加者数（児童・生徒）	15,000	13,146	↑
☆☆	221114	学力向上支援教員配置事業	配置校の全国学力・学習状況調査の平均正答率対全国平均正答率(%)	-4	-8	↑

施策：2212 新たな社会への対応力を育む教育の推進

平成31年度
目指すべき姿

重点化

- ・ 学校園の情報教育に係る環境整備を充実させる。
- ・ プログラミング教育の円滑な導入に向け、授業・教材及びカリキュラムモデルを検証し、全小学校へ広める。
- ・ 新学習指導要領を踏まえた英語教育を充実させる。

☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した授業時数について、実績値が計画値を上回るなどICTを活用した授業を促進することができた。 ・ 中学校3年生における、英検3級程度の英語力を有する者が国の計画値（50%）を上回るなど、一定の英語教育の充実を図ることができたが、市の計画値については達成できていない。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教育研修会、学校園別コンピュータ研修会、アウトリーチ型研修を通してICTの活用方法や事例の紹介ができた。今後、児童生徒1人1台の学習者用端末整備に向けて、教員の力量に応じた支援や研修を実施するとともに、活用の場面、方法等について研修する機会を設ける必要がある。 ・ 英語教育においては、中学校3年生において、英検3級程度の英語力を有する者が55.9%に達しており、一定の成果が見られた。令和2年度より教科化された小学校外国語科における指導力の向上と、小・中の接続について更なる研究を重ね新学習指導要領において求められる英語力の育成を図る必要がある。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国が示した「GIGAスクール構想」実現に向けて、児童生徒1人1台の学習者用端末の整備や校内通信ネットワークの整備を計画的に実施するとともに、ICT等を活用した遠隔授業についても計画的に進めていく。 ・ 英語教育の充実については、小学校においては、専科教員や外国人英語指導助手等を活用し児童が英語を活用する機会を充実させる。中学校においては、英検IBA等の結果分析を行い、さらなる授業力向上に向けた研究を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全7事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	221206	情報教育推進事業	ICTを活用した1クラスあたり月平均授業時間	38.0	38.3	↑
☆☆☆	221213	グローバル化に向けた英語教育推進事業	中学3年生英語力（英検3級程度）（%）	58.0	55.9	↑

施策：2213 伊丹ならではの特色ある教育の推進

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・ 「『読む・書く・話す・聞く』ことば文化都市」として伊丹ならではの教育の推進・充実を図る。
- ・ 小学校（2020年）、中学校（2021年）における新学習指導要領全面実施を踏まえた教育内容等、社会総がかりの教育として、様々なメディアを通して広く市民にアピールする。

☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館と「ことば蔵」が連携し、児童生徒の読書教育の推進・充実を図ることができた。 ・ 市民に分かりやすい広報を進めるために、広報紙の集約、内容の精査、ホームページの積極的な更新を行うことができた。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書習慣の定着に向けた取組を進め、児童生徒の読書量が増加した。 ・ 「教育長の日記」の随時更新をはじめ、広報紙やホームページを通して教育情報を積極的に情報発信することができた。 ・ 教育委員会内で発行していた広報紙関係を、すくすくぐんぐん伊丹っ子などに集約したことにより、内容の精査が必要である。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校図書館の充実による読書教育の推進を図るとともに、研修等を通じて、学校図書館と「ことば蔵」の連携を強めていく。 ・ 積極的な情報発信に努め、市民が知りたい情報をより早く伝えられるように広報活動を進める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全2事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221303	学校図書館活性化事業	小・中学校の児童生徒一人あたりが1ヶ月に読書した冊数（冊）	9	11.1	↑



施策：2214 魅力ある市立高等学校づくり

平成31年度
目指すべき姿

重点
化

- ・特色化事業では、英検対策講座や、English Camp等を通して、グローバル社会に対応できる資質能力を育成する。
- ・活性化事業では、放課後特別学習等を通して、生徒が希望する幅広い進路の実現を図る。
- ・2020年度から始まる「大学入学共通テスト」に対応するため、主体的・対話的で深い学びにつながる取組を推進する。

☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成に向けて、English Campを始めとする多様な取組の充実と推進を図ることができた。 ・補習学習や放課後特別学習の実施により、一人ひとりの生徒が目標を高く持ち、自らの希望進路実現に向けて主体的に取り組むことができた。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、英検準2級程度学力保持者の割合が上昇しており、今年度も計画値を大きく上回った。 ・国公立大学合格者数は計画値を下回ったが、個に応じた細やかな指導により、多様化する生徒の進路希望に対応することができた。 ・令和2年度から始まる「大学入学共通テスト」への対応や学習指導要領の改訂に向けて授業改善やカリキュラムマネジメントの推進を図る必要がある。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学校行事を通して、グローバル社会に対応できる資質能力の育成を目指す。 ・2年後の学習指導要領の改訂に向けて、思考力・判断力・表現力等の向上をめざし、「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。そのために、自ら課題を見つけ、解決する学習としての「論文作成」や「課題研究」等を実施する。 ・学力の伸長を図り、チャレンジ精神旺盛な意欲ある生徒を育て、幅広い進路実現を目指した取組を進める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全4事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221401	市立伊丹高校活性化事業	国公立大学合格者数	25	9	↑
☆☆☆☆	221402	市立伊丹高校特色化事業	英検準2級程度学力保持者の割合(%)	60	82.8	↑

施策：2215 特別支援教育の推進

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・全市的な特別支援教育の体制の整備を図る。
- ・インクルーシブ教育の理念を踏まえ、本人・保護者との合意に基づいた合理的配慮の理解の促進を図る。
- ・特別支援教育に関する研修会を実施し、教職員の専門性の向上を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態を的確に把握して、個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用を啓発することができた。 ・外部講師による発達障がいに関する研修会や、指導主事派遣による学校内での校内研修を実施し、教職員の専門性の向上を図ることができた。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援についての協議が活発に行われるなど特別な支援に対する認知がさらに進んだ。 ・教職員を対象とした研修会を実施し、教職員の専門性の向上を図ることができた。 ・個別の教育支援計画の作成・活用について、支援の効果の検証に基づいた支援の見直しを図るよう啓発していく必要がある。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から学齢期へと一人ひとりの障害の状態や教育的ニーズ等に応じた一貫した支援の構築を図る。 ・福祉関係機関との連携をより一層推進し、多面的な切れ目のない支援を行う。 ・「今後の特別支援教育のあり方（基本方針）」を改訂し、周知及び進捗確認を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全11事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221501	伊丹市特別支援教育審議会事業	個別の教育支援計画作成人数の割合(%)	89	75	↑
☆☆☆☆	221514	伊丹特別支援学校活性化事業	自立活動研修会及び理学療法士等を活用した回数	48	56	=

施策：2221 豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体で、児童生徒の「生きる力」の基盤となる規範意識、生命の尊重、思いやり等の道徳性の育成を図る。
- ・キャリア教育の視点に基づいた授業や行事等を通して、児童生徒に育成すべき基礎的・汎用的能力の育成を図る。
- ・児童生徒の自尊感情を育み、より豊かに生きる力を育成するための、体験活動等を実施する。

施策評価	施策評価の理由	・個々の事業において概ね目標を達成できた。また、「特別の教科 道徳」を要とし、教育活動全体で、児童生徒の道徳性の育成を図ることができた。
☆☆☆	成果と課題	・体験活動や行事、授業等を通して、自尊感情や共感的理解を育むことができた。児童生徒のより豊かな心の育成に向け、系統的で体系的なキャリア教育に基づいた教育活動の推進を行うとともに、引き続き、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人ひとりの児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え・議論する道徳」の実践及び研究を行う必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・キャリア教育の研究の継続や、児童会・生徒会等の活性化、地域と連携した体験活動等の充実を図るとともに、「考え・議論する道徳」の実践と子どもたちの成長を認め、励ます「評価」を実施する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全9事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222104	小学生の自然体験事業	小学校において年間に行う環境体験学習の実施回数	3	3.6	=
☆☆☆☆	222111	キャリア教育推進事業	自分にはよいところがあると肯定的に回答した児童生徒の割合（％）	76	77.9	↑



施策：2222 子どもの問題行動への対応

平成31年度
目指すべき姿

重
点
化

- ・スクールソーシャルワーカー等の専門性を有する人員の効果的な活用を通して、学校、家庭、地域、関係機関等の連携した取組を進め、いじめや暴力行為・不登校等児童生徒数の減少に向け、未然防止・早期対応を図る。

施策評価	施策評価の理由	・スクールソーシャルワーカーの活用、スクールカウンセラーの相談の充実を図ってきたことで、小学校の問題行動、中学校の不登校を減少させることができた。
☆☆☆	成果と課題	・各学校における、スクールソーシャルワーカーの活動件数が大幅に増加した。 ・市内の全公立小・中・高等（市立）学校に配置しているスクールカウンセラーによる相談の充実を図り、複雑化・多様化している問題の共有・解決について取り組むことができた。 ・長期欠席児童生徒（不登校）及び問題行動については、要因を分析の上、取組を進める必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・「チームとしての学校」の実現に向け、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを活用するとともに、教育支援センターや民間施設の活用等の実施の研究を進め、学校、家庭、関係機関との連携を強化する。 ・新型コロナウイルス感染症や複雑化する問題等による、子どもたちの心のケアの充実を図る。 ・個々の状況に応じ、ICTを活用した不登校児童生徒への学習支援や環境整備についての研究を進める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全7事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222201	スクールサポート事業	スクールソーシャルワーカーの学校・家庭・関係機関等への訪問回数	4,200	6,606	↑

施策：2223 子どもの健やかな体づくりと部活動の推進

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・伊丹市体力・健康づくり推進プランに基づき、児童生徒の体力向上に向けた具体的な取組を推進する。
- ・中学校部活動指導員と外部指導者の適切な配置や、県大会、近畿大会助成制度などの活用により、中学校等の運動部活動の振興・充実を図る。
- ・薬物乱用防止教育等をはじめとする健康教育の充実を図る。

☆☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業開始時における体力向上に向けた取組や各学校における課題分析を行うことにより、小学生の体力は全国平均を上回り、中学生の体力は計画値を上回ることができた。 ・部活動の各種大会においては、上位大会に出場する等、活躍できた。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力調査の結果から、小学校男子及び中学校男女は全国平均を上回り、小学校女子は全国平均をやや下回る結果であった。 ・悉皆となった平成25年度以降、小学校は男女とも年々体力が向上しているが、持久力と敏捷性に課題が見られる。 ・新型コロナウイルスの影響による臨時休業に伴い、体を動かす機会が失われ、多くの児童生徒が運動不足となった。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、児童生徒の発達段階や各校の実態に応じた取組を計画的・持続的に実施することで、児童生徒の体力の向上を図る。 ・感染症対策を講じながら、運動の「質の確保」と「機会の確保」、「意欲の向上」の3つの観点から家庭と学校が連携し、計画的、持続的に取り組む。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全10事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222303	中学校運動部活動外部指導者派遣事業	外部指導者配置数（人）	20	20	=
☆☆☆☆	222304	県大会、近畿大会助成制度事務	出場者数（人）	350	440	↑
☆☆☆	222313	体力・健康づくり推進事業	全国体力調査の全国平均を100とした時の小学校の指数	101.0	100.5	↑
☆☆☆☆	222313	体力・健康づくり推進事業	全国体力調査の全国平均を100とした時の中学校の指数	102.5	103.4	↑

施策：2224 健全な食生活の推進

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・「伊丹市食育推進実践計画(いたみ食育プラン)」に基づき、児童生徒の食に関する正しい知識と判断力を育む。
- ・「食に関する指導」や「学校給食献立コンクール」「食育講演会」等を実施し、給食献立レシピをホームページで公表する等、健全な食生活の普及啓発に努めるとともに、学校給食を生かした食育の取組を推進する。
- ・伊丹産や兵庫県産の食材を積極的に取り入れ、地産地消の推進に努めるとともに、残食軽減を目指す取組を進める。

☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「学校給食献立コンクール」等の様々な取組を通じて食育の推進を図ることができた。 ・安全性の確保を最優先にしたアレルギー対応食（「卵」除去食）の提供を小・中学校共に実施することができた。 ・3月からの臨時休業措置により「食に関する指導」を実施できなかった学校があったため計画値を下回った。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・食育に関する取組、アレルギー対応食の提供、「アレルギー対応マニュアル」の周知徹底、県産品を利用した「おやこ料理教室」の開催等を計画的に実施することができた。 ・今後も引き続き、安全・安心な給食の提供と残食軽減の取組を進めていく必要がある。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、関係部局と連携を図り、食育に関する取組の充実を図るとともに、関係機関と連携を図り、地産地消の取組を推進する。 ・アレルギー対応食の提供については、引き続き安全性の確保を最優先に実施する。 ・残食軽減に向けて、定期的に調査を行うとともに、給食アンケート結果をもとに各小中学校と連携を図り、残食軽減の取組を推進する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全3事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	222401	健全な食生活推進事業	「給食に関する指導」「食に関する指導」の指導年間実施回数	244	175	=
☆☆☆☆	222401	健全な食生活推進事業	地産地消の推進	28.0	37.7	↑

施策：2231 学校園情報の積極的な発信と学校園運営への市民参画

平成31年度
目指すべき姿

重点化

- ・社会総がかりで子どもたちを育成するため、教育広報紙やホームページ等を通じ、教育の現状や課題を積極的に発信する。
- ・学校運営協議会の設置及び取組の充実を図る。
- ・学校運営協議会と地域学校協働活動との連携を図りながら、学校と地域がともに学校運営に取り組むコミュニティ・スクールを拡充する。

施策評価	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・従来のリーフレットや、ホームページの更新等に加えて、平成31年度からは自治会回覧を活用しての周知にも取り組み、伊丹の教育情報についてより広く周知することができた。 ・市内市立全小・中・高等学校への学校運営協議会の設置が完了し、各学校や地域の実情に応じた学校運営協議会の推進を図ることができた。
☆☆☆	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会事務局のホームページへのアクセス件数は増加傾向にあり、ホームページの随時更新の成果が見られた。また、教育情報を掲載した各種リーフレットを作成し、教育トーク等で活用し、多くの情報を発信することができた。 ・広報紙は、組織改編により所管が拡大したため、紙面構成に苦慮した部分があった。 ・市内市立全小・中・高等学校への学校運営協議会の設置が完了した。特別支援学校への設置を今後検討する。 ・学校運営協議会と地域学校協働活動の連携について、研修会や推進協議会を通して周知を進めることができた。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットやホームページ等での情報発信を行う。広報紙への記事掲載については、内容を精査し、読みやすい紙面づくりを心掛ける。 ・学校運営協議会の質の向上と、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進に向け、推進協議会や研修会の充実を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全7事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	223104	伊丹市学校支援地域本部事業	伊丹市学校支援ボランティア人材バンク登録者数	700	957	↑
☆☆☆☆	223108	コミュニティ・スクール運営充実事業	学校運営協議会の開催回数	78	94	↑

施策：2232 安全・安心な学校園づくり

平成31年度
目指すべき姿

取組維持

- ・児童生徒等の安全の確保を図るため、各学校園での危険等発生時を想定した様々な訓練等を通して、教職員が適切に対処できる実践力の向上を図る。
- ・児童生徒等自身が、自分の命を自分で守ることができるよう、危機対応能力を育成する。
- ・老朽化が進む校舎の大規模改造工事等を計画的に実施し、安全・安心な教育環境の維持向上を推進する。

施策評価	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童生徒の危機対応能力の育成を図り、各学校園において計画通り防災訓練や教職員対象の心肺蘇生法講習会を実施するとともに、大規模改造工事等、施設の安全性向上に資する整備を実施することができた。
☆☆☆☆	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法講習会等、様々な取組を通して、園児・児童生徒及び教職員の危機対応能力の向上を図ることができた。 ・学校園においては、大規模改造工事等を計画的に実施し、安全・安心な教育環境の維持向上を図ることができた。 ・安全安心な学校園づくりや感染症対策に向けた取組を効果的なものとするため、実施時期や内容等について、毎年見直す必要がある。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・園児・児童生徒が、安全安心な学校園生活を送ることができるよう、計画的な防災訓練や感染症対策の充実、教職員対象の心肺蘇生法講習会等の実施、施設の整備を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全13事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223206	学校園防犯訓練・防災教育	警察と連携した防犯訓練の実施小学校数	17	17	=
☆☆☆☆	223207	学校施設の大規模改造等事業	工事実施校数	7	7	=
☆☆☆	223212	教職員対象心肺蘇生法講習会	心肺蘇生法講習会受講者数	560	521	↑

施策：2233 教職員の意識改革と資質の向上

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・授業力向上や新学習指導要領の対応等、喫緊の教育課題に即した研修を実施する。
- ・研究・研修資料の提供や指導主事・授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントによる支援を行う。

☆☆☆☆	施策評価の理由	・教員のニーズに応じた研修を計画的に実施し、資質の向上を図ることができた。
	成果と課題	・初任者を含む若手教員・ミドルリーダー・トップリーダーと教職員のライフステージに応じた研修を実施することで、各教職員に必要な資質の向上を図ることができた。 ・教員の授業力向上に向け、研修会だけでなく、アウトリーチ型の支援を行い、更なる教職員の資質向上に努める必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・教育課題に対応した研修、管理職の資質向上のための具体的な学校事例に基づく実践的研修を行い、主体的に学校園経営に参画する中堅教員を育成するためのミドルリーダー養成研修等を実施する。 ・各校の校内研究を推進するためにアウトリーチ型による校内研究の支援を充実させる。 ・教員研修の時間と距離の制約をなくすためにオンラインや動画配信等を導入する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223301	学校力アップ事業	研究発表校数（校）	6	6	=
☆☆☆☆	223304	初任者・経年研修事務	市教育委員会主催の研修会1人あたりの参加回数	7	7	=
☆☆☆☆	223306	教職員のための各種講座及び研修・研究活動	研修受講者満足度割合（%）	97	97.9	↑
☆☆☆☆	223307	授業力向上（カリキュラム）支援センター	自主研修利用者数	1,500	1,603	↑

施策：2311 市民の主体的な学習や活動の支援

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・生涯学習ボランティアの育成、支援を継続する。
- ・市民の参画と協働による学びの場を拡充する。
- ・学習成果の地域還元を推進するコーディネート機能を充実させる。

☆☆☆	施策評価の理由	・機能移転や大規模改修の準備、施設閉鎖があった中で、講座等生涯学習活動支援事業において、計画値を上回る事業参加者数を得ることができた。
	成果と課題	・生涯学習ボランティアの定着がみられた。 ・新しい生活様式が提案されている中で、市民の学習活動をどのように支援していくかが課題である。
	令和2年度への対策・対応	・オンラインを活用し、市民の学習活動の継続、グループ活動のPRを図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全5事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231105	講座等生涯学習活動支援事業	事業参加者数	15,600	16,024	↑
☆☆☆	231107	まちなか公民館事業	学習グループの地域派遣件数	40	40	=

施策：2312 社会教育施設等の効果的活用

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・ホームページ等により学習情報や各種イベントを効果的に情報発信する。
- ・社会教育施設の特徴を活かした事業を展開する。
- ・他施設、企業、地域等と連携した参画と協働による取組を進める。
- ・多様化する市民ニーズに対応した学習機会を提供する。

施策評価	施策評価の理由	・各施設の特徴を活かしつつ、幅広く事業を展開することができた。また、ホームページ等の広報媒体により学習情報等を広く発信することができた。
☆☆☆	成果と課題	・市民の主体的な参画と協働による取組を実施することができた。今後も施設間のネットワークを深めていくことで、幅広い市民ニーズに的確に応えていく必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・感染拡大防止措置を講じた上で事業を展開するとともに、市民ニーズに沿ったより幅広い学習機会の提供や、情報発信の充実に努める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全15事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231202	生涯学習センター管理運営委託事業	利用者数	200,000	182,397	↑
☆☆☆	231203	北部学習センター管理運営委託事業	利用者数	144,000	125,514	↑
☆☆☆	231204	博物館管理運営事業	利用者数	46,500	32,162	↑

施策：2313 伊丹の特色を活かした学びの創出

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・市民と共に、図書館本館「ことば蔵」のさまざまな事業等を実施する。
- ・市民の生涯学習を支援するため、図書館資料の整備充実を図る。
- ・歴史・文化財をテーマとした講座等を通じて、郷土の魅力を発信する。

施策評価	施策評価の理由	・図書館事業については、「図書館を使った調べる学習コンクール」が、地域活性化への特に優れた取り組みであるとして総務大臣賞を受賞し、新聞等への掲載を通じて、「ことば蔵」及び伊丹市のPRに繋がった。 ・博物館事業については、市域航空資料の複製作成や、「ことば蔵」・伊丹酒造組合と共催の講座「やさしい古文書教室」をことば蔵で開催する等、郷土の魅力発信に向けた館蔵資料の有効活用に資することができた。
☆☆☆	成果と課題	・図書館事業については、交流フロア運営会議を中心とした交流イベントを年間194回実施した。雑誌「鉄道ファン」や田辺聖子先生関連のイベントなど、メディアに取り上げられる事業を数多く実施できた。今後は、若年層の取り込みを強化するとともに、図書事業との相乗効果のあるイベントを実施し、来館者や図書貸出の増加に繋げる必要がある。 ・博物館事業については、前年度受講者の意見を反映させ、古文書だけでなく、和歌や名所図会などをテキストとして使用することで、受講者の満足度を高めることができた。館蔵している様々な史料を有効に活用し、郷土伊丹の魅力の発信力を更に高めていくことが課題である。
	令和2年度への対策・対応	・図書館事業については、交流イベントや、「図書館を使った調べる学習コンクール」を通じた利用促進と、「ことば蔵」及び伊丹市のPRを更に進める。また、魅力的な蔵書構成となるような図書の選定・配架に努める。新型コロナウイルス感染対策による臨時休業や実施サービスの縮小が考えられるが、感染拡大防止措置を講じたうえで、生涯学習施設としての責務を果たす。 ・博物館事業については、画像提供依頼が多いと考えられる空港周辺を写した焼付写真パネルの複製を進め、資料の更なる活用を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231305	図書館本館活動事業（図書の充実・交流事業を除く）	本館貸出冊数（冊）	709,000	628,405	↑
☆☆☆	231306	ことば蔵交流事業	イベントの実施回数(回)	200	194	↑
☆☆☆	231308	図書館図書充実	蔵書冊数(冊)	630,400	622,041	↑
	231309					
☆☆☆	231312	博物館の整備・充実	複製件数（件）	1	1	=

施策：2321 生涯スポーツの環境づくり

平成31年度
目指すべき姿

重点化

・「伊丹市スポーツ推進計画」に基づき、あらゆる世代の市民が性別、障がいの有無等にかかわらず、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する。
・2020年の「東京2020オリンピック・パラリンピック」、2021年の「ワールドマスターズゲームズ 関西2021」に向けて機運を高めるため、多くの市民が参加できる各種イベント等を検討する。

☆☆☆	施策評価の理由	・スポーツ推進委員や体育協会各加盟種目協会等との連携により、各種大会やイベント等について計画どおり進めることができたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一部中止となった事業があった。
	成果と課題	・スポーツクラブ21会員及び各種大会やイベント等への参加者の増加を図るため、SNSやホームページ等を活用し、情報発信を積極的に行う必要がある。
	令和2年度への対策・対応	・「伊丹市スポーツ推進計画」に基づき、あらゆる世代の市民が性別、障がいの有無等にかかわらず、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況をみながらとなるが、2021年に延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック」、2021年の「ワールドマスターズゲームズ 関西2021」に向けて機運を高めるため、多くの市民が参加できる各種イベント等について検討する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全3事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	232101	スポーツの活動支援	スポーツクラブ21会員数（人）	6,000	6,192	↑
☆☆☆	232102	生涯スポーツに向けた環境整備	市民スポーツ祭等参加人数（人）	18,000	12,256	↑
☆☆☆	232103	スポーツ推進計画ハード事業	体育施設の利用者数	850,000	726,293	↑

施策：2322 伊丹の特色・資源・人材を活かしたスポーツ振興

平成31年度
目指すべき姿

取組維持

・第15回全国高等学校なぎなた選抜大会の実施により、「伊丹ブランド」として、なぎなた競技を振興する。
・マスコットキャラクター等により、同大会の効果的な周知を行い、ふるさと寄附の協力を呼びかける。

☆☆☆	施策評価の理由	・新型コロナウイルス感染症の影響により大会を中止せざるを得なかったが、なぎなた教室等伊丹ならではのスポーツを普及させるための各種講習会については概ね開催することができた。
	成果と課題	・第15回全国高等学校なぎなた選抜大会では、全47都道府県から104校329名の選手が出場する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み中止することとした。
	令和2年度への対策・対応	・「なぎなたのまち」として、感染症対策を講じながら、全国高等学校なぎなた選抜大会を効果的に運営するとともに、なぎなたの振興を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全1事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
	232201	全国高等学校なぎなた選抜大会	大会参加人数	2,000	0	↑



施策：3131 文化財の保存と情報発信

平成31年度
目指すべき姿

重点
化

- ・ 史跡や文化財、発掘資料、博物館資料など、伊丹の歴史文化の情報発信を充実させる。
- ・ 地域と連携した調査、研究を推進し、研究紀要『地域研究いたみ』等で発表する。
- ・ 伊丹市埋蔵文化財センターにて、埋蔵文化財の保存、管理、公開、活用を行う。

☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館：平成29年度から3か年かけて進めてきた史料集13『伊丹城（有岡城）跡－主郭部の発掘調査を中心として－』を刊行した。北河原地区での過去の調査について『地域研究いたみ』49号に掲載するとともに、旧村調査（伊丹郷町(伊丹小学校)）を修史等専門委員とともに実施し、平成16年度に調査した旧村「口酒井」を春のテーマ展で紹介することができた。 ・ 文化財担当：周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の発掘調査（記録保存）を行い、過去に実施した調査の成果や出土遺物等を活用した展示を埋蔵文化財センターや小学校等で実施した。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館：最新の知見に基づいた有岡城の研究結果として史料集13が刊行できた。旧村調査は一部史料の目録（リスト）を作成できた。「口酒井」の展示では、「口酒井農業水利組合文書」をはじめとする、地域に残された史料を広く紹介できた。今後も地域や市民と連携し、残された史料に関する情報の収集に努め、調査・研究を継続していくことが課題である。 ・ 文化財担当：市内遺跡の記録保存だけでなく、計4棟の市内歴史的建造物を国登録・県指定文化財とすることが出来た。今後も所有者等に未指定文化財・埋蔵文化財の保存への意識を醸成していくことが必要である。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 博物館：令和2年度から3か年で刊行する史料集14の初年度であり、対象となる文書の選定や調査を資料修史等専門委員会の取組として実施する。また、旧村調査（荻野地区）・展示（伊丹郷町）・報告（鴻池地区）を実施する。 ・ 文化財担当：伊丹廃寺跡・有岡城跡の整備をはじめとして、文化財の適切な保存・活用に努める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全7事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	313101	博物館史料集刊行事業	史料集刊行数（点）	1	1	=
☆☆☆	313103	文化財発掘調査事業	本発掘調査実施済率（%）	100	100	=
☆☆☆	313105	旧村史料調査事業&「旧村シリーズ」展示	調査・報告・展示件数（件）	3	3	=

施策：3132 文化財を活かしたまちづくり

平成31年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・ 文化財ボランティアや文化財保護団体を育成・支援し、伊丹の歴史的、文化的遺産を次世代に継承する。
- ・ 郷土の歴史・文化にふれあう機会を充実し、郷土への愛着の心を育む。
- ・ 文化財保護強調月間に伴う、伊丹市文化財保護啓発事業を通じて、伊丹の歴史・文化財を活用したまちづくりの振興を図る。

☆☆☆☆	施策評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内各文化財保護団体が、それぞれの特色を活かしながら、様々な活動を年間を通じ実施され、会員だけでなく市民も参加し、まちづくりに寄与することが出来た。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月の文化財保護強調月間に実施した「文化財保護啓発事業」へは文化財保護団体の会員だけでなく、市内外から多くの参加があった。 ・ 次年度以降も事業を継続し、市内に数多くある文化財の保護の重要性について、更なる啓発が必要である。
	令和2年度への対策・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財愛護少年団の活動支援等、幅広い世代にわたり文化財への愛着の意識醸成を続けるだけでなく、地域に残る未指定の歴史遺産を地域住民にも周知し、まちづくりに活かしていけるよう図っていく。 ・ NHK大河ドラマ「麒麟がくる」にあわせ、有岡城や荒木村重をはじめとした本市の歴史・文化財について市内外への情報発信を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全1事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	313202	文化財保護啓発事業	啓発活動参加者数(人)	3,000	3,990	↑